

平成22年度第1四半期決算概要

22年8月

頭取 中西 勝則

Dream with you.



静岡銀行



目次

22年度第1四半期決算の概要

●決算の状況		1
●貸出金		2
●与信費用		3
●リスク管理債権		4
●有価証券		5
●預金		6
●預貸金利回り		7
●預り資産		8
●経費		9
●自己資本比率		10
●株主還元の状況		11

参考資料

●業務粗利益・業務純益の 長期的トレンド		12
●貸出金と県内シェア推移		13
●預貸金ギャップと債券投資の 推移		14
●法人部門 ～地域密着型金融～		15
●個人部門 ～消費者ローソの増強～		16
●海外進出サポート体制		17
●IT戦略		18
●グループの状況		19

22年度第1四半期決算の概要

Dream with you.



SHIZUOKA BANK

静岡銀行



決算の状況

【連結】

(億円)	09年度実績			10年度計画		10年度第1四半期		
	実績	前期比		計画	前期比	実績	前年同期比	進捗率 (年度ベース)
経常収益	2,145	△177	2期連続減収	2,080	△65	551	+4	26.5%
経常利益	539	+339	3期振り増益	537	△2	189	+31	35.2%
当期純利益	328	+197	3期振り増益	307	△21	104	+3	33.9%

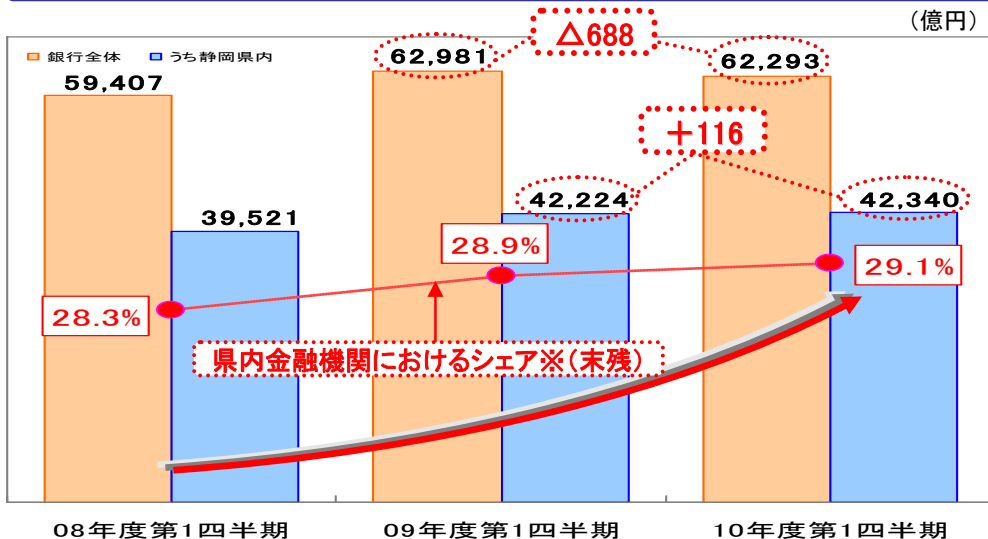
【静岡銀行単体】

(億円)	09年度実績			10年度計画		10年度第1四半期		
	実績	前期比		計画	前期比	実績	前年同期比	進捗率 (年度ベース)
経常収益	1,860	△193	2期連続減収	1,800	△60	478	+4	26.6%
業務粗利益	1,520	+33	6期連続増益 過去最高	1,473	△47	418	+43	28.4%
うち資金利益	1,293	△4		1,287	△6	330	△4	25.6%
うち役務取引等利益・特定取引利益	157	△15		161	+4	33	△3	20.5%
うち国債等債券関係損益	52	+51		5	△47	50	+46	1,000.0%
経費 (△)	793	△2		818	+25	210	△2	25.7%
一般貸倒引当金繰入額(△)	83	△72		55	△28	△7	△7	△12.7%
業務純益	643	+107	3期振り増益 過去最高	600	△43	215	+52	35.8%
実質業務純益※1	727	+35		655	△72	208	+44	31.8%
基礎的業務純益※2	675	△16		650	△25	158	△2	24.3%
不良債権処理額 (△)	149	△38		104	△45	23	+3	22.1%
株式等関係損益	29	+204		26	△3	△14	△26	△53.8%
経常利益	505	+336	3期振り増益	500	△5	175	+22	35.0%
特別損益	4	+6		0	△4	△6	△10	—
当期純利益	321	+193	3期振り増益	300	△21	102	+2	34.0%
与信費用 (△)	233	△110		159	△74	16	△5	10.1%

※1 実質業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額

※2 基礎的業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額－国債等債券関係損益

総貸出金残高（平残）の推移



●10年度第1四半期の総貸出金残高(平残)は
6兆2,293億円と前年同期比△688億円の
減少

【中小企業向け貸出金】 平残 2兆5,457億円

前年同期比+41億円増加 (年率+0.2%)

※保証協会利用状況 平残 7,235億円

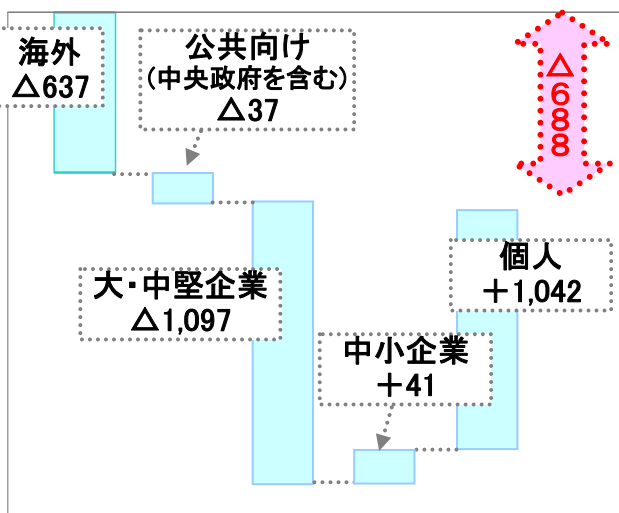
【個人向け貸出金】 平残 2兆1,324億円

前年同期比+1,042億円増加 (年率+5.1%)

貸出金（平残）の増減内訳

【増減額内訳(前年同期比)】

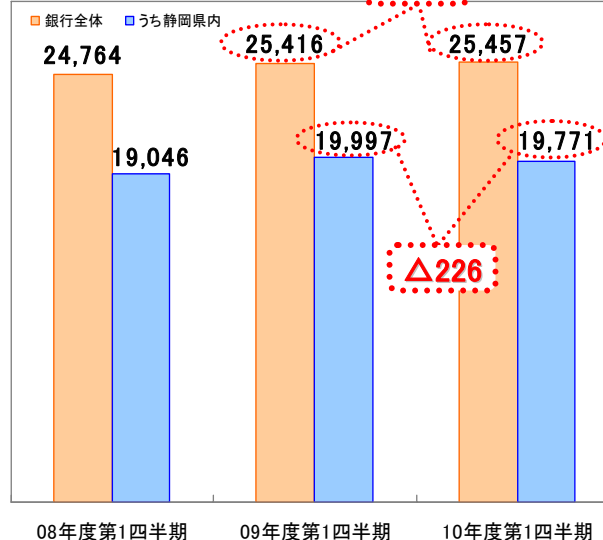
(億円)



うち中小企業向け貸出金残高（平残）の推移

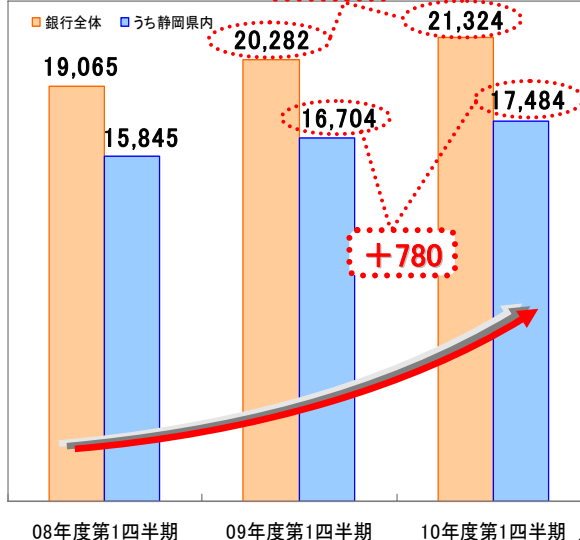
※公社・アパートローンを含まない

(億円)



うち個人向け貸出金残高（平残）の推移

(億円)



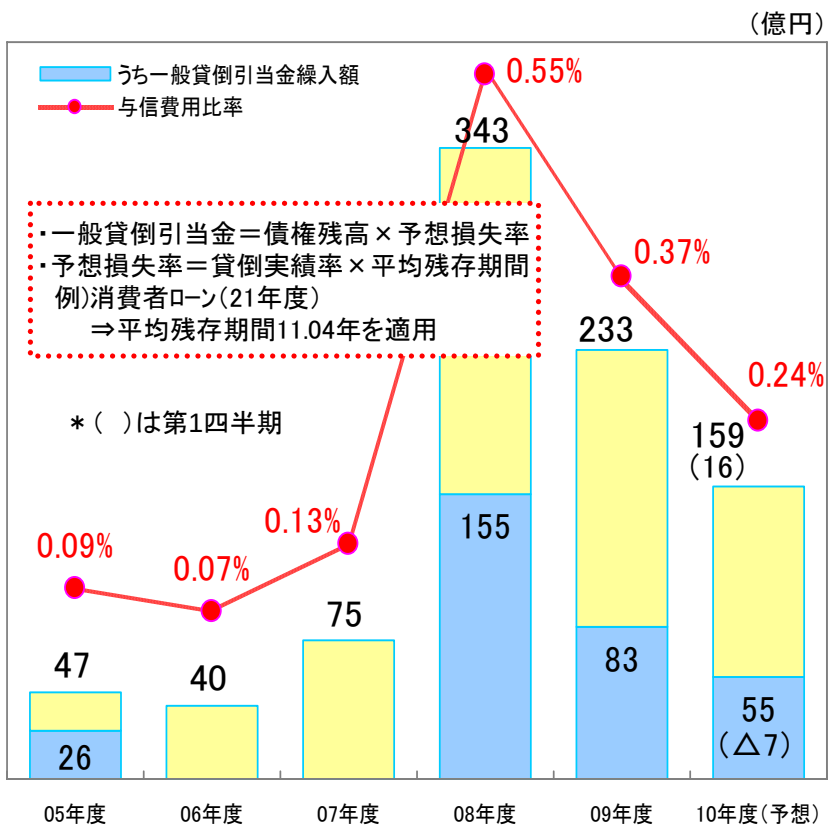


与信費用

与信費用：10年度第1四半期 16億円（前年同期比△5億円）

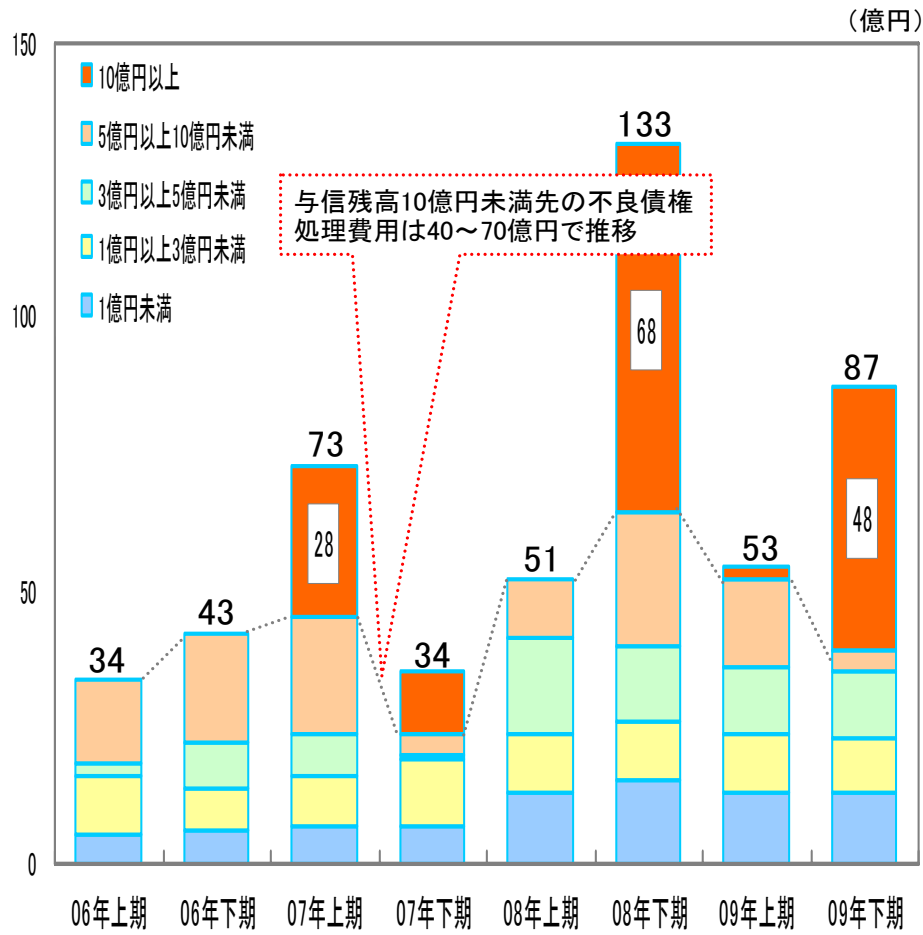
- 一般貸倒引当金繰入額 △7億円（前年同期比 △7億円）
- 不良債権処理額 23億円（ " +3億円）うち個別貸倒引当金繰入額20億円

与信費用・与信費用比率の推移



※与信費用 = 不良債権処理額 + 一般貸倒引当金繰入額
与信費用比率 = 与信費用 ÷ 貸出金平残
07年度以降の不良債権処理額には信用保証協会責任共有制度に関する偶発損失引当金繰入額等を含む

(参考) 与信残高金額階層別の個別貸倒引当金繰入額推移



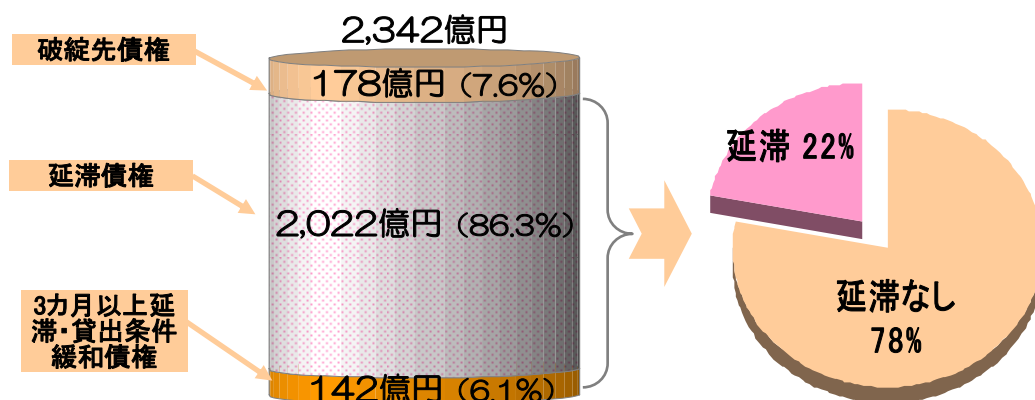


リスク管理債権

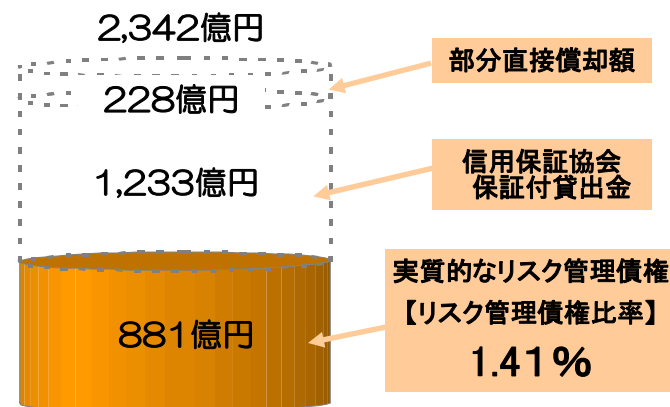
リスク管理債権の状況（単体ベース）

- 10年6月末のリスク管理債権の総額 2,342億円（10年3月末比+47億円）
- リスク管理債権の割合 3.72%（同 +0.08ポイント）
 - 部分直接償却を実施した場合の228億円と、信用保証協会の保証付貸出金の1,233億円を控除した場合のリスク管理債権総額881億円、実質的なリスク管理債権の割合1.41%（同+0.03ポイント）

リスク管理債権の内訳



実質的なリスク管理債権



不良債権のオフバランス化

(億円)	07年度	08年度	09年度	10年度第1四半期
新規発生 (うち格下)	+693 (+506)	+892 (+580)	+977 (+801)	+197 (+181)
オフバランス化 (うち破綻懸念先以下)	△706 (△600)	△765 (△532)	△764 (△695)	△149 (△131)
リスク管理債権	1,955	2,082	2,295	2,342

【131億円の内訳】

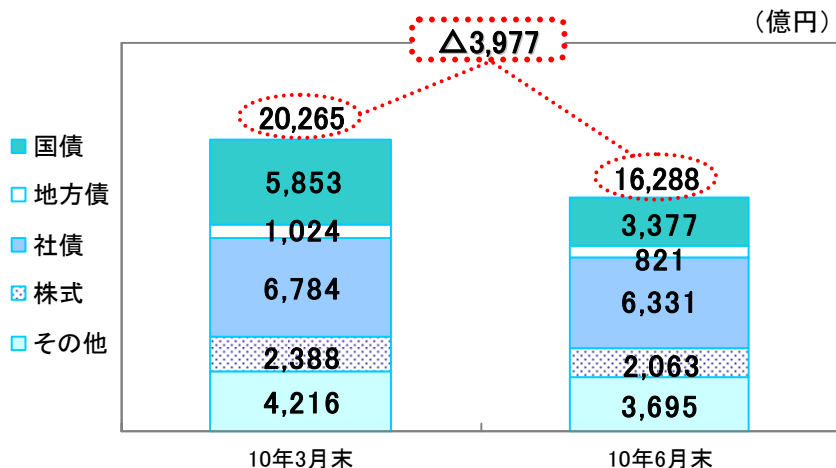
(億円)	
本人弁済・預金相殺	34
担保処分・代位弁済	62
格上	35
債権売却	0
直接償却	0



有価証券

- 10年6月末の有価証券残高 1兆6, 288億円(10年3月末比 $\Delta 3, 977$ 億円)
- 10年6月末の有価証券評価損益 1, 151億円(同 $\Delta 181$ 億円)
うち株式評価損益 837億円(同 $\Delta 308$ 億円)

有価証券残高の推移

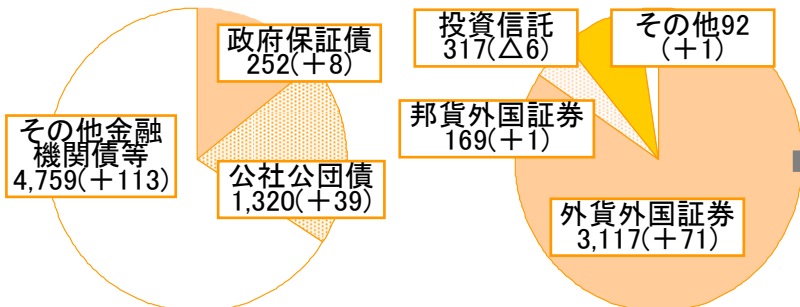


債券平均残存期間・有価証券評価損益の推移

	10年3月末	10年6月末
平均残存期間(円貨)	4.73年	4.08年
平均残存期間(外貨)	2.60年	0.79年
有価証券評価損益	1,332億円	1,151億円
うち株式	1,145億円	837億円
日経平均株価	11,089.94円	9,382.64円

社債6,331億円の内訳
(前期比 $\Delta 453$ 億円)

その他3,695億円の内訳
(前期比 $\Delta 522$ 億円)



モーゲージ債の内訳

(億円)

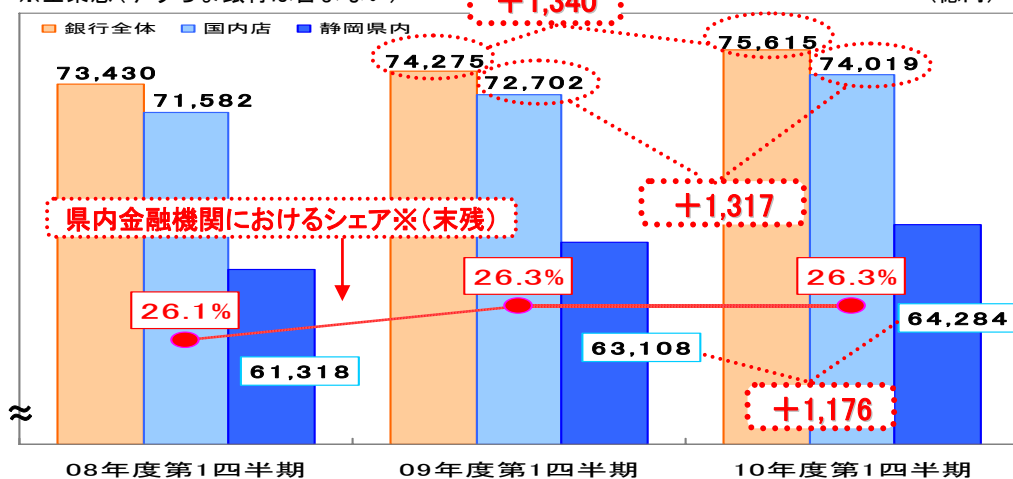
	(簿価)	10/3比	(評価損益)
ジニーメイ	2,636	$\Delta 469$	+65
ファニーメイ	17	$\Delta 3$	0
フレディマック	166	$\Delta 16$	$\Delta 1$

※()内は評価損益

預金等残高（平残）の推移

※全業態（ゆうちょ銀行は含まない）

（億円）



- 10年度第1四半期の預金等残高（平残）は7兆5,615億円と前年同期比+1,340億円（年率+1.8%）の増加

【国内営業店】 平残 7兆4,019億円
（前年同期比+1,317億円増加・年率1.8%）

【うち県内預金】 平残 6兆4,284億円
（前年同期比+1,176億円増加・年率1.9%）

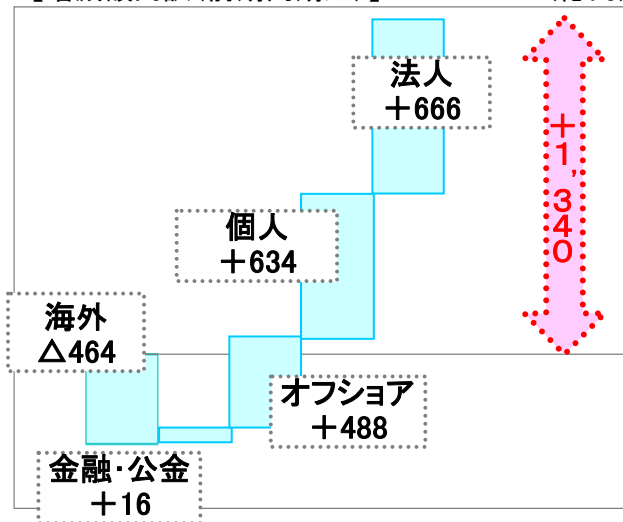
【うち個人預金】 平残 5兆1,625億円
（前年同期比 +634億円増加・年率1.2%）

【うち法人預金】 平残 1兆9,188億円
（前年同期比 +666億円増加・年率3.6%）

預金等（平残）増減額の内訳

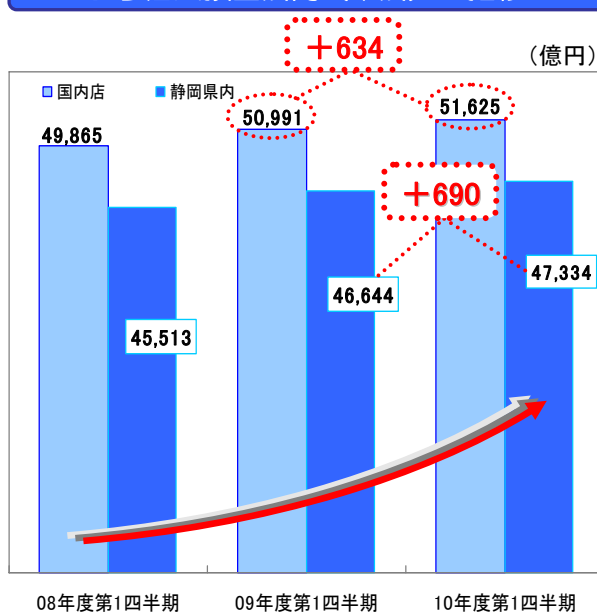
【増減額内訳（前期同期比）】

（億円）



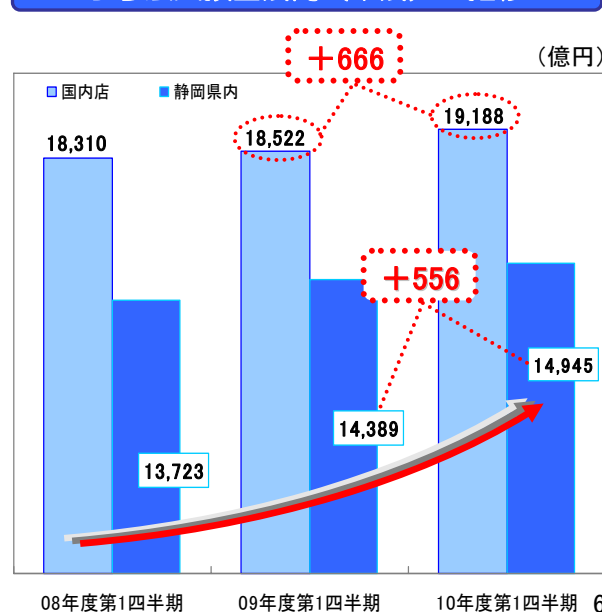
うち個人預金残高（平残）の推移

（億円）



うち法人預金残高（平残）の推移

（億円）





預貸金利回り

- 10年6月(単月)の預貸金利回り差は1.62%で、10年3月(単月)と比べ同水準にて推移

円貨貸出金・預金構成の変化(単月比較)

	〔10年3月〕		〔10年6月〕	(兆円、%)
	平残(構成比)	利回り	平残(構成比)	利回り
貸出金	6.1 (100.0)	1.74	6.1 (100.0)	1.72
変動金利	4.5 (73.7)	1.67	4.5 (73.8)	1.66
短プラ・新長プラ	2.9 (46.8)	2.08	2.9 (47.3)	2.07
基準				
市場連動	1.6 (25.4)	0.86	1.5 (25.2)	0.82
固定金利	1.6 (26.3)	1.91	1.6 (26.2)	1.88

〔預貸利回り差〕 +1.62

±0

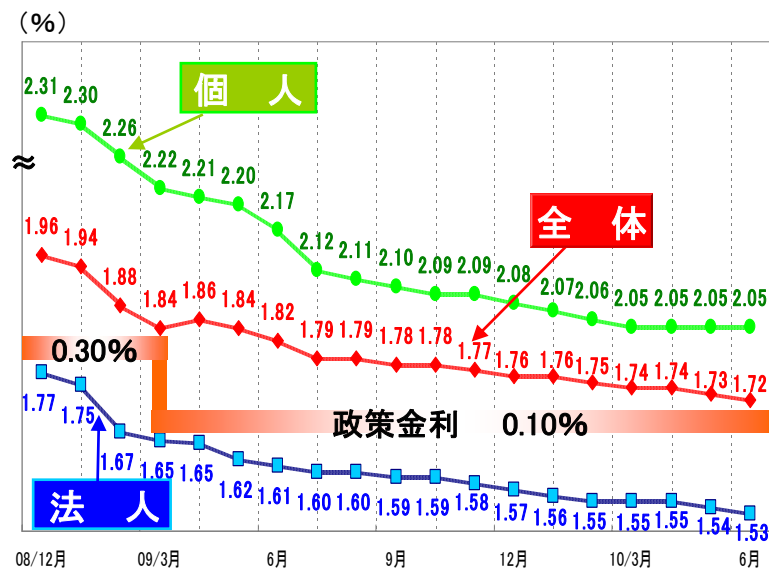
+1.62

預金	7.2 (100.0)	0.12	7.3 (100.0)	0.10
流動預金	3.9 (53.9)	0.02	3.8 (52.6)	0.02
定期性預金	3.0 (41.3)	0.24	3.0 (41.4)	0.21

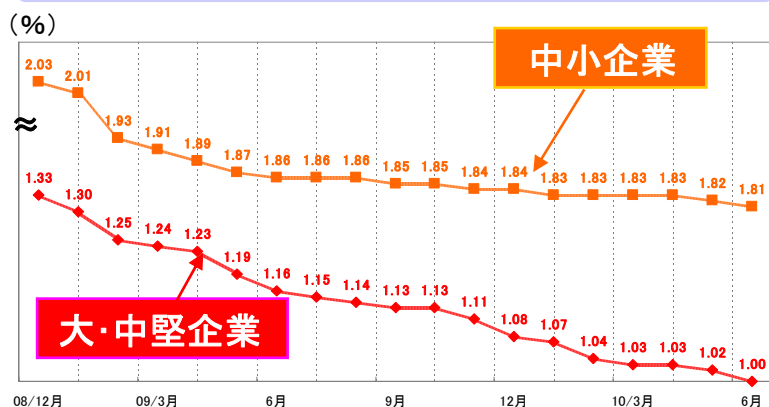
△0.02

※預金はNCDを含む

貸出金利(月中平均)の推移



うち企業規模別法人貸出金利の推移





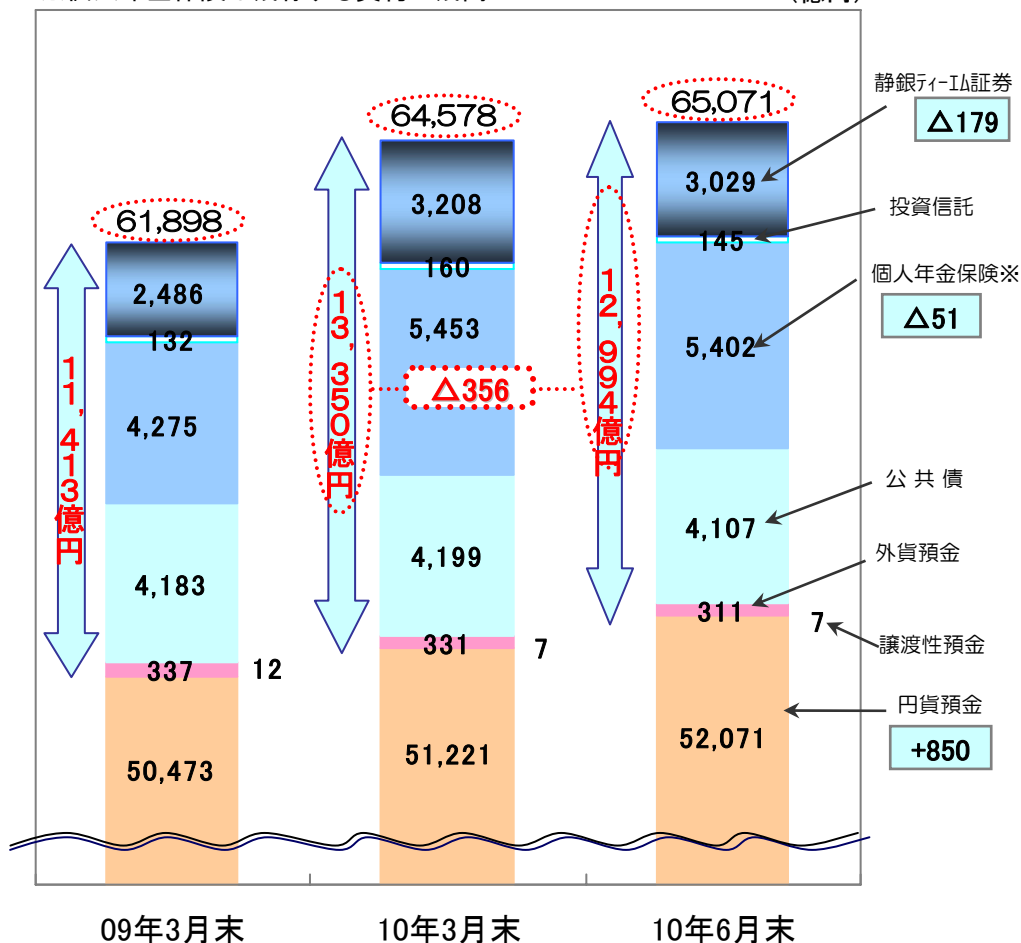
預り資産

- 10年6月末の静銀ティーム証券を含む個人預り資産残高 6兆5,071億円(10年3月末比 +493億円)
うち円貨預金および譲渡性預金を除く個人預り資産残高 1兆2,994億円(同 △356億円)

個人預り資産（末残）の推移

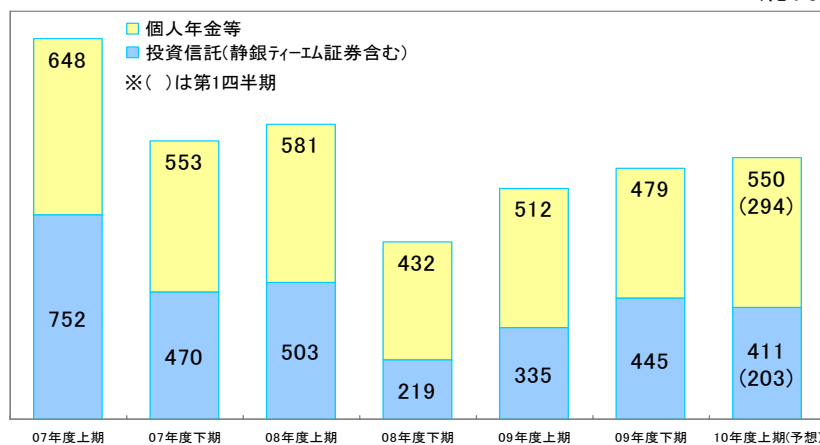
※個人年金保険は残存する契約の残高

(億円)



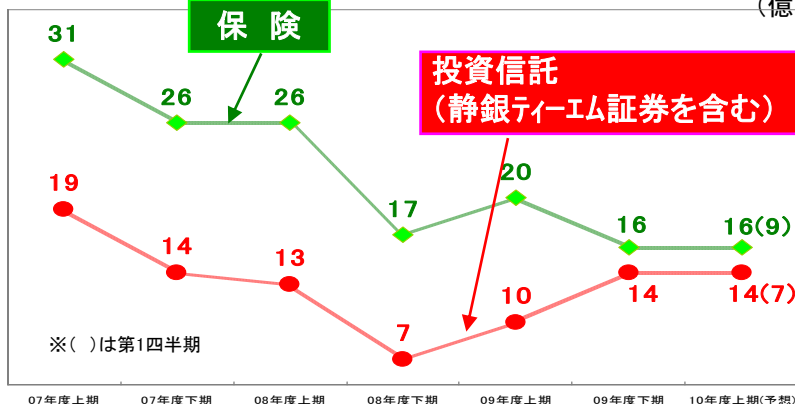
投資信託・保険の販売額

(億円)



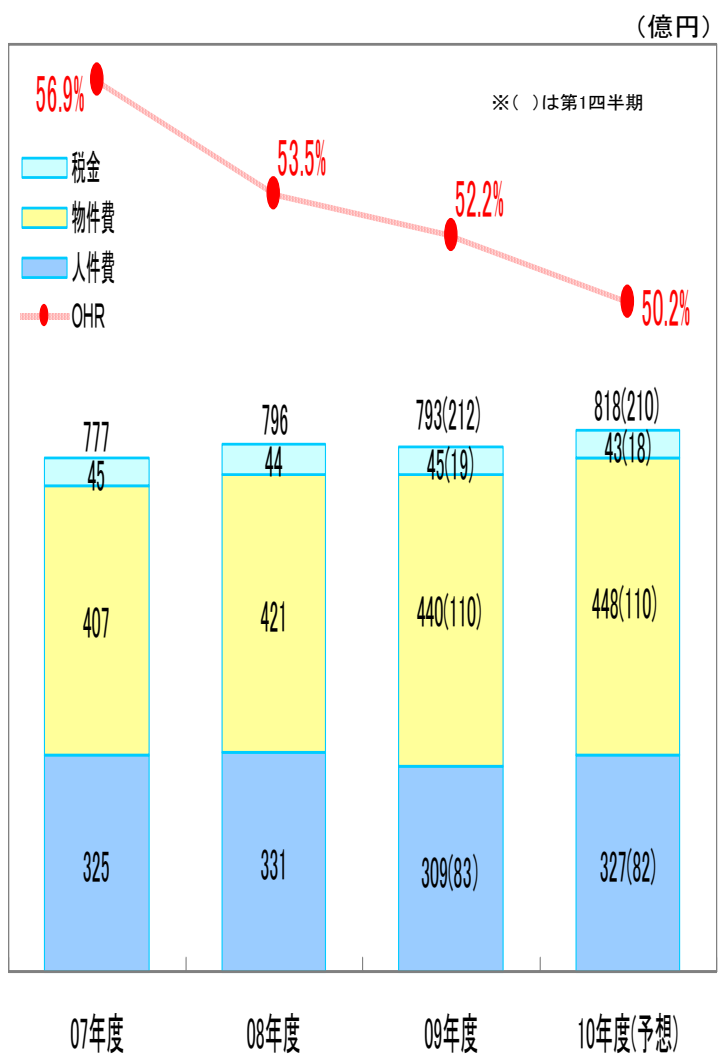
投資信託・保険販売手数料の推移

(億円)



●10年度第1四半期 210億円(前年同期比△2億円削減)、OHR(単体) 50. 2%

経費およびOHRの推移



物件費の推移

(億円)

	07年度	08年度	09年度	10年度上期 (予想)	10年度 第1四半期
物件費	407	421	440	224	110
システム関連	123	130	144	73	33
事務委託・外部委託費	75	79	80	40	20
その他	209	212	216	111	57

〔ご参考〕 人員の推移

(人)

	09年 3月末	10年 3月末	11年3月末 (予想)	(09年 3月末比)
営業店フロント	2, 685	2, 742	2, 925	+240
うち行員	1, 982	1, 991	2, 165	+183
営業店バック・アシスト	1, 506	1, 520	752	△754
うち行員	325	318	115	△210
本部・融資業務センター・その他	1, 096	1, 013	963	△133
うち行員	534	565	470	△64
銀行全体 (A)	5, 287	5, 275	4, 640	△647
うち行員	2, 841	2, 874	2, 750	△91
グループ会社等 計 (B)	1, 927	1, 874	2, 540	+613
グループ総人員 (A+B)	7, 214	7, 149	7, 180	△34

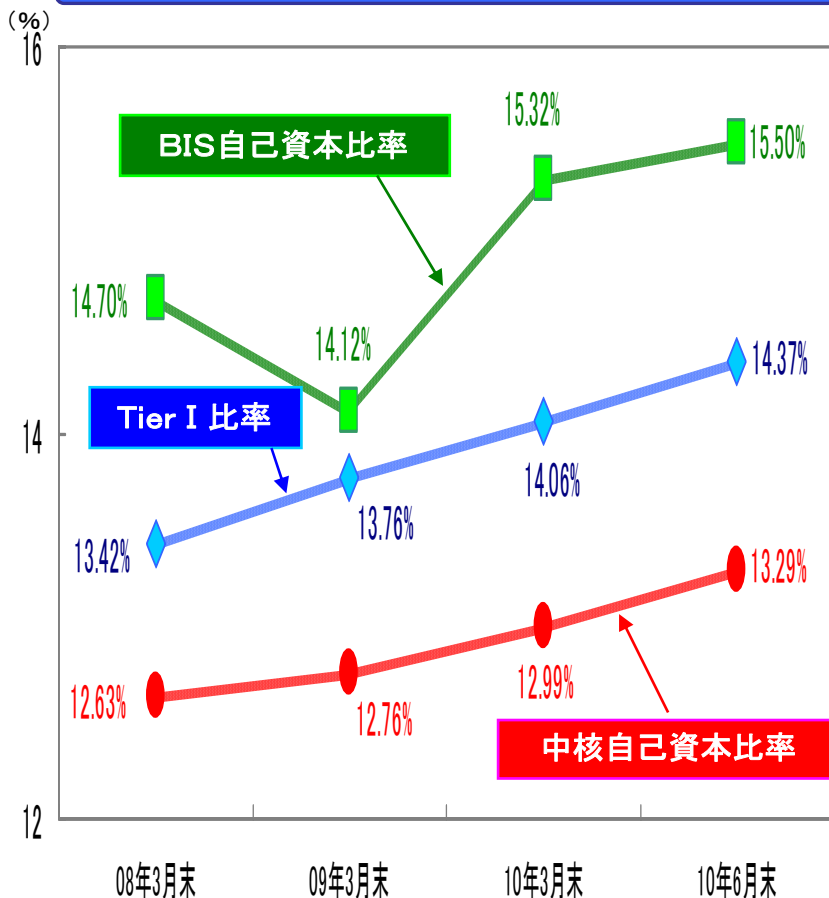
※臨時雇、派遣社員等を含む



自己資本比率

- 10年6月末のバーゼルⅡによる自己資本比率 15.50%(前年度末比+0.18ポイント)
- Tier I 比率 14.37%、中核自己資本比率 13.29%

BIS自己資本比率(連結ベース)



【参考】中核自己資本比率=Tier I -繰延税金資産相当額※
※その他有価証券評価差額金等対応分を除く

自己資本およびリスク・アセット等の推移

(億円)

	08年 3月末	09年 3月末	10年 3月末	10年 6月末	10年 3月末比
自 己 資 本	6,504	6,234	6,878	6,839	△39
うち Tier I	5,938	6,078	6,314	6,343	+29
うち中核自己資本	5,589	5,633	5,833	5,865	+32
うち Tier II	791	291	676	607	△69
リスク・アセット等	44,232	44,148	44,889	44,115	△774
信用リスク・アセットの額	40,895	40,946	41,663	40,865	△798
マーケット・リスク相当額に係る額	220	248	205	229	+24
オペレーショナル・リスク相当額に係る額	2,837	2,954	3,021	3,021	0
フロア調整額	280	—	—	—	—

アウトライヤー比率(単体ベース)

銀行勘定の金利リスク量	Tier I + Tier II	アウトライヤー比率
559億円	6,683億円	8.37%



株主還元状況

- 09年度1株当たり配当額(13円)は地銀最高水準(配当性向28.20%、配当利回り1.59%)
- 10年度についても、「配当性向25%程度かつ大手地銀最高水準」の配当維持を目指し、市場動向、業績等を勘案して決定する方針のもと、1株当たり配当額(年間)13円を予定
- 09年度は5,000千株、10年度は10,000千株の自己株式取得を実施

配当額の推移

(単位:円、%)

	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度予想
1株当たり配当額(年間)	13.00	13.00	13.00	13.00	13.00(6.50)
配当利回り(配当/期末株価)	1.03	1.10	1.47	1.59	—

()は中間配当額

株主への利益配分の状況

(単位:億円、%)

	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度 予想	00～09年度実績 (10年間)
年間配当額①	92	91	91	91	89	687(累計)
自己株式取得額②	—	126	—	40	76	798(累計)
株主還元額③=①+②	92	218	91	131	165	1,486(累計)
当期純利益④	363	352	128	321	300	2,478(累計)
配当性向①/④×100	25.39	25.96	70.85	28.20	29.73	27.74(平均)
株主還元率③/④×100	25.39	61.82	70.85	40.64	55.05	59.96(平均)

参考資料

Dream with you.



SHIZUOKA BANK

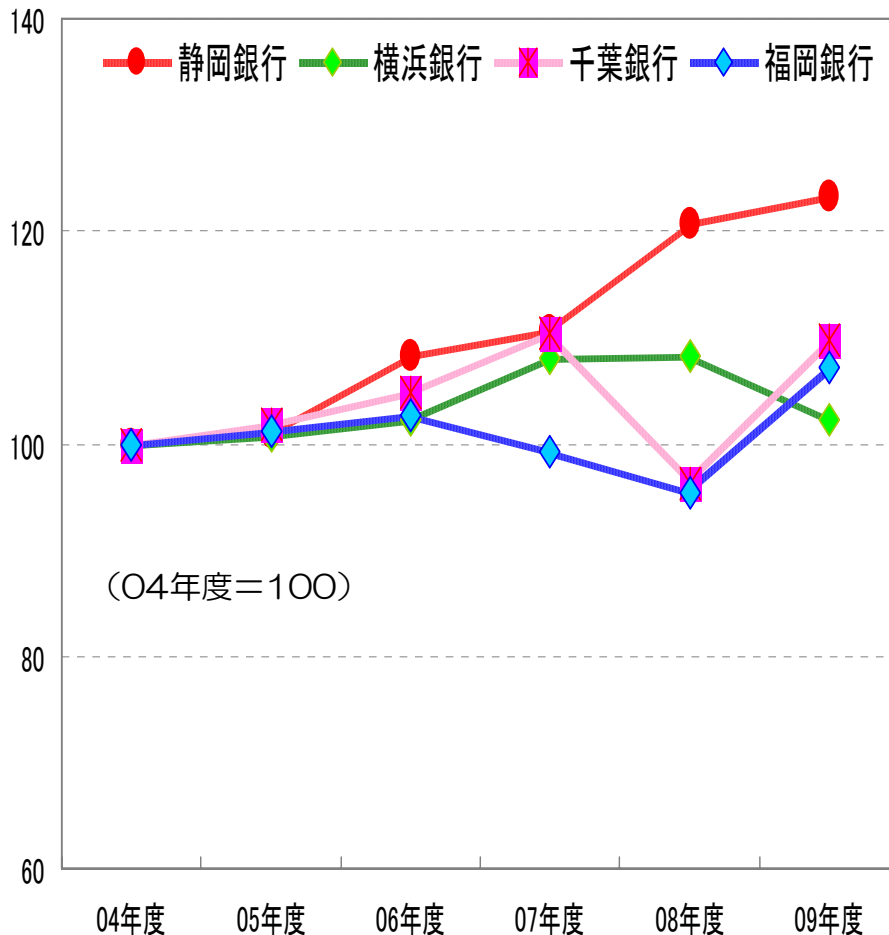
静岡銀行



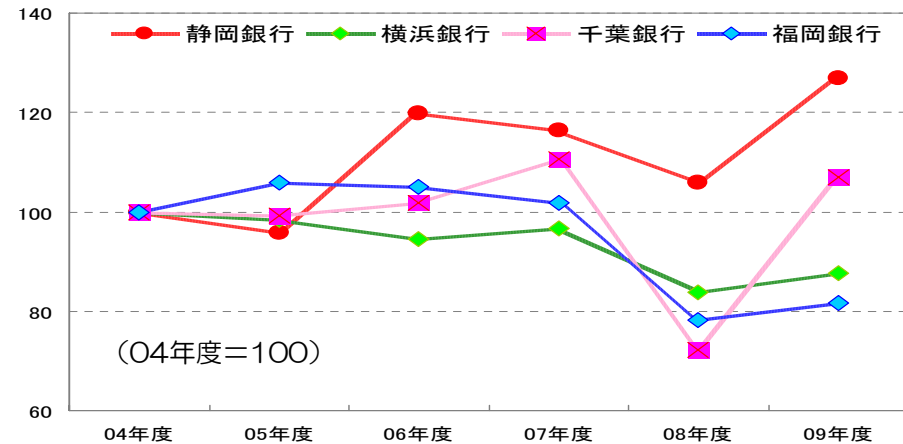
業務粗利益・業務純益の長期的トレンド

- 09年度は業務粗利益、業務純益とも過去最高益を計上
- 業務粗利益、業務純益とも安定的な伸びを示している

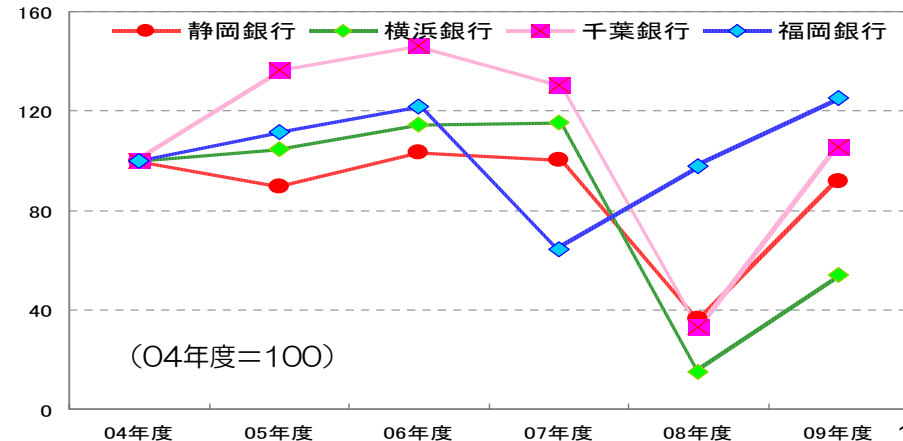
業務粗利益の推移 (04～09年度)



業務純益の推移 (04～09年度)



当期純利益の推移 (04～09年度)

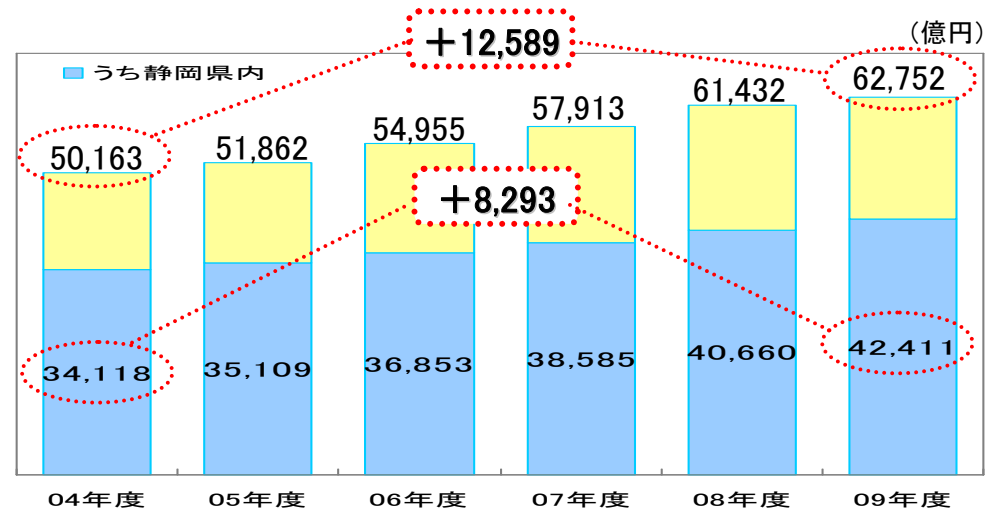




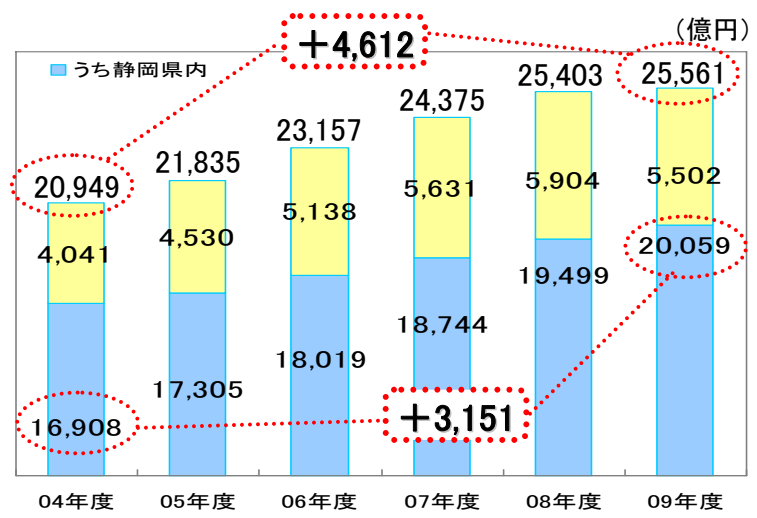
貸出金と県内シェア推移

- 05年度からの5年間に、総貸出金平残は+12,589億円増加。県内は+8,293億円
(うち中小企業向け貸出金平残+4,612億円、消費者ローン平残+6,576億円)

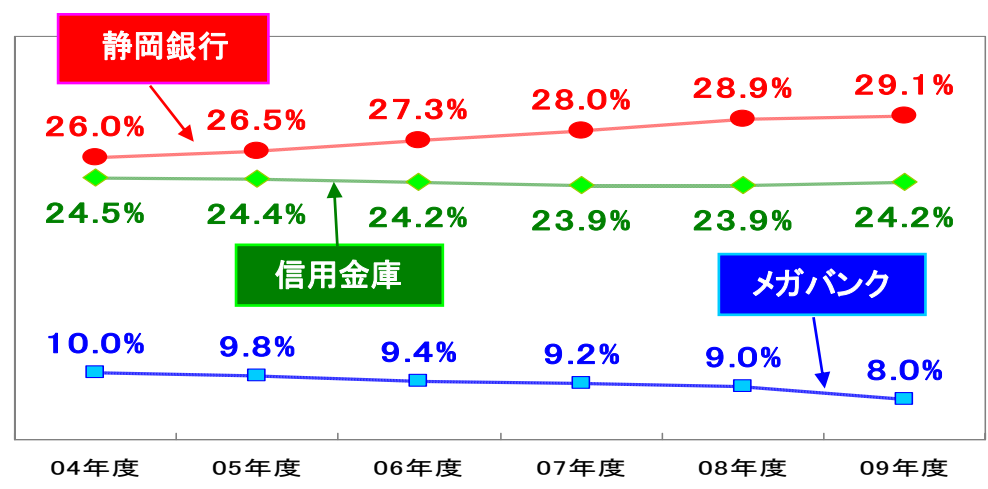
総貸出金平残の推移



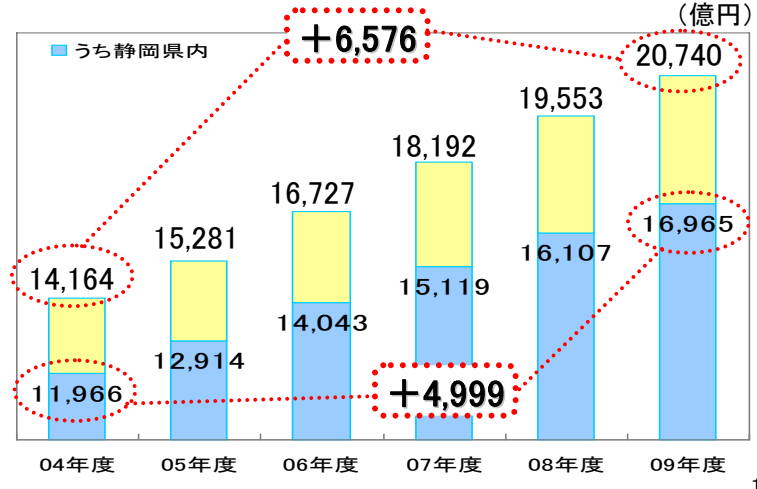
中小企業向け貸出金残高(平残)の推移



県内貸出金シェアの推移



消費者ローン残高(平残)の推移

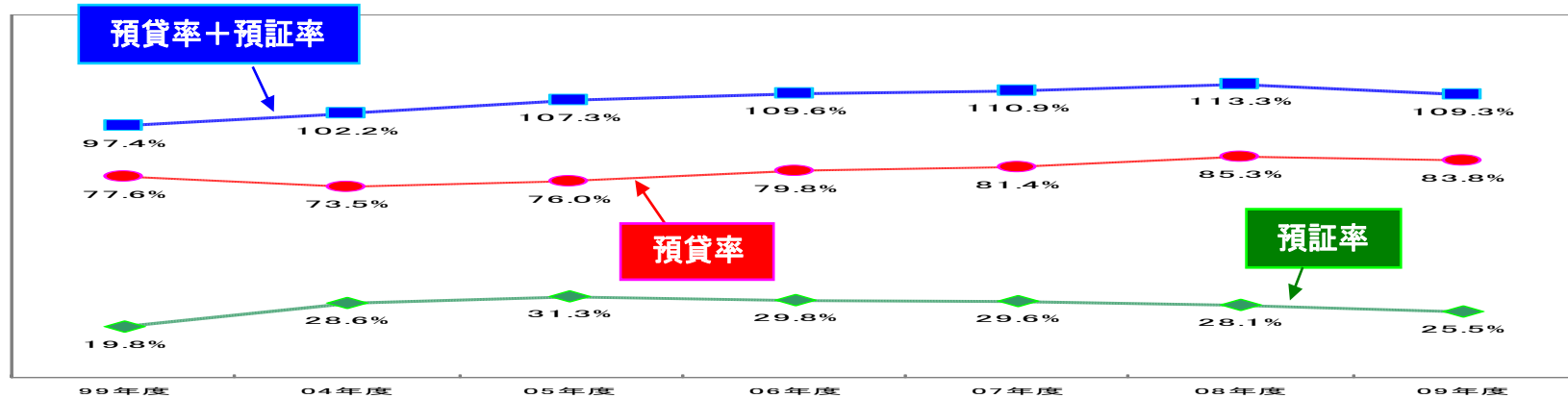




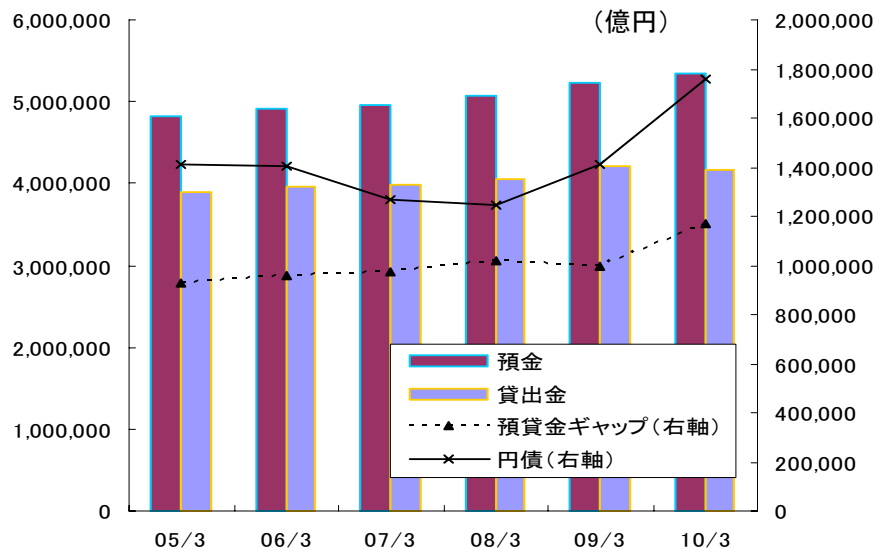
預貸金ギャップと債券投資の推移

- 全国銀行と比べて貸出金残高が堅調に推移し、預貸金ギャップが縮小する中で一定の円債残高を維持している

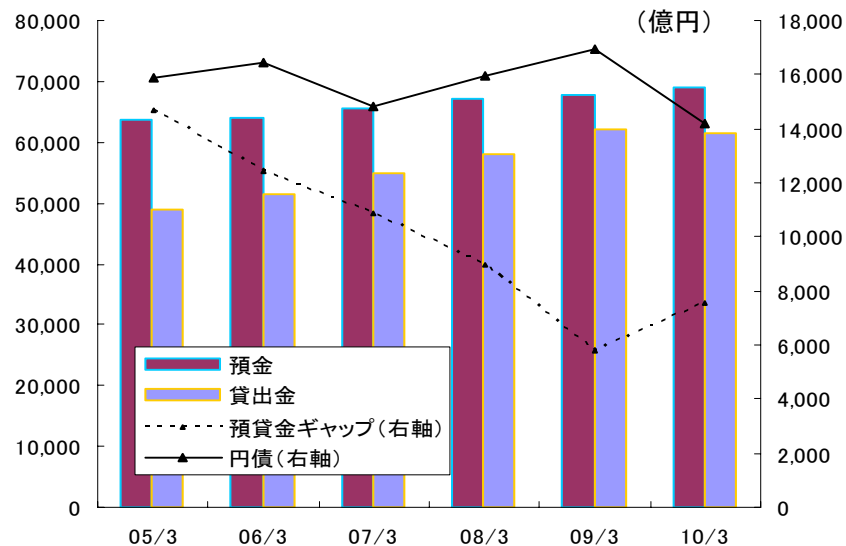
預貸率・預証率の推移



全国銀行の預貸金ギャップと円債投資残高の推移



静岡銀行の預貸金ギャップと円債投資残高の推移





法人部門 ～地域密着型金融～

ビジネス マッチング

〔成約実績および融資実行額〕

	07年度	08年度	09年度	10年度 第1四半期
実績	822件	2,257件	2,595件	788件
融資額	439億円	323億円	344億円	72億円



〔事業再生支援完了件数〕

	07年度	08年度	09年度	10年度 第1四半期
件数	19件	17件	20件	2件

経営改善支援 事業再生支援

先進的な取組みを通じた揺るぎないリージョンシップの構築
⇒シェアアップに結びついている



Shizugin:ship

- 会員数（10年6月末）
875社、1,320名
- セミナ-5回、ゼミナ-ル8講座ほか
のべ参加人数769名

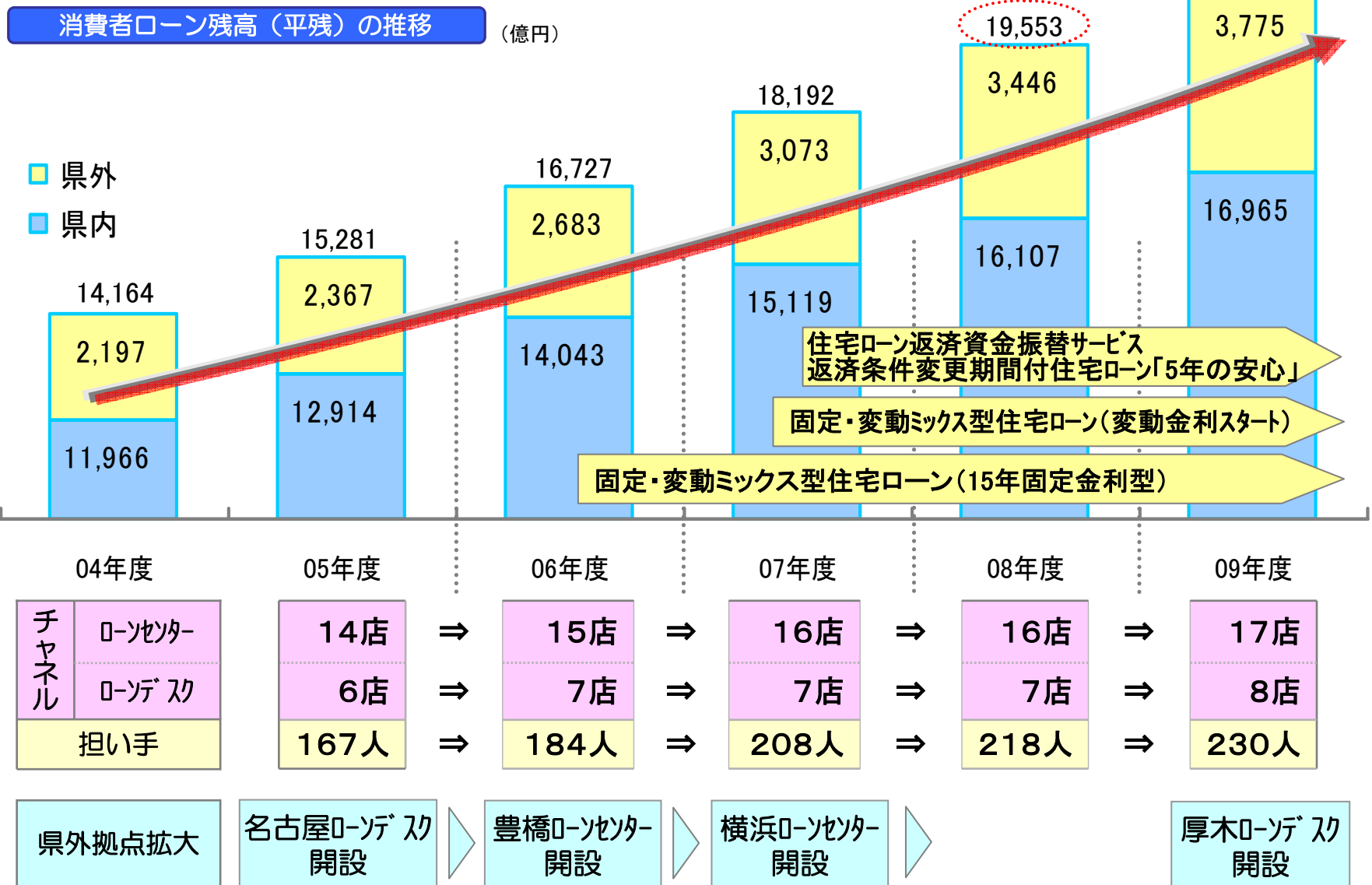




個人部門 ～消費者ローンの増強～

- 消費者ローン拠点の拡充、商品ラインナップの充実、200名を超える専担者の配置など営業推進体制を整備

+1,187
年率6.1%

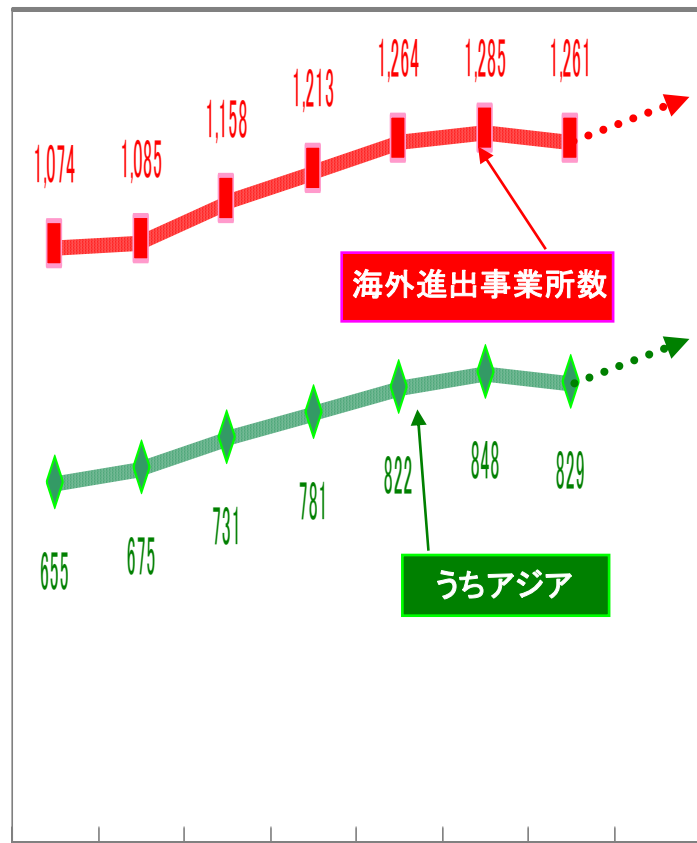




海外進出サポート体制

- アジアをはじめとする海外へ地域企業が進出
- 地域金融機関としての海外進出サポートのビジネスモデルを確立し、競争力を強化

静岡県内企業の海外進出状況



03年 04年 05年 06年 07年 08年 09年

(出所) 静岡県経済産業部

当行の海外拠点とサポート体制



〈海外金融機関との業務提携〉

中国建設銀行・バソク銀行
クレディ アグリコル コーポレート アンド インベストメント バソク



IT戦略

●04年度からシステム基盤のオープン化などITインフラ整備に計画的に取組み ⇒ 生産性の向上へ

05年度

06年度

07年度

08年度

09年度

10年度

.....

IT戦略の推進

●高水準の生産性 ●顧客サービス意思決定のスピードアップ ●経営自由度の確保 ●コスト競争力の強化

マーケティング高度化、商品提供支援機能等の強化
次世代店頭体制、チャネル間情報連携の実現
会計・リスク・収益・人事等のマネジメント情報の一元化

経営戦略実現に繋がるIT機能の提供

- 経営管理基盤の構築
- 金融商品販売システムの構築(10年下期)→CRMへの発展
- 諸届受付処理のワークフロー化(10年下期)→ナビゲーションシステムへの発展

全体最適化に向けた基盤の整備

- 統合データベースの整備開始(09年5月～)
- オープン系システムの共通インフラ整備開始(09年5月～)

情報の標準化・スピードアップ
情報鮮度の向上

融資・渉外業務の抜本的改革

- 融資支援システム(S-navi)再構築(08年8月)
- 営業支援システム(S-prit)との一体化(08年5月)
- 融資業務センターの設置(07年1月)

営業店事務処理の抜本的改革

- 新営業店システム全店展開(08年3月)

営業店BPR(システム化・標準化・集中化)の推進
(フロント特化型店舗の実現)
融資業務の効率化

システム基盤のオープン

- 回線・・・広域イーサネット網(06年7月)
- 情報・・・セキュリティ対策強化(06年6月)
- クライアント・・・オープンプラットフォーム化(06年6月)

イメージ等の大容量データへの対応
情報漏洩・ウイルス感染防止等の強化

ITガバナンスの強化

●三位一体の組織運営 ●ITの見える化 ●投資コントロール ●リスク極小化



グループの状況

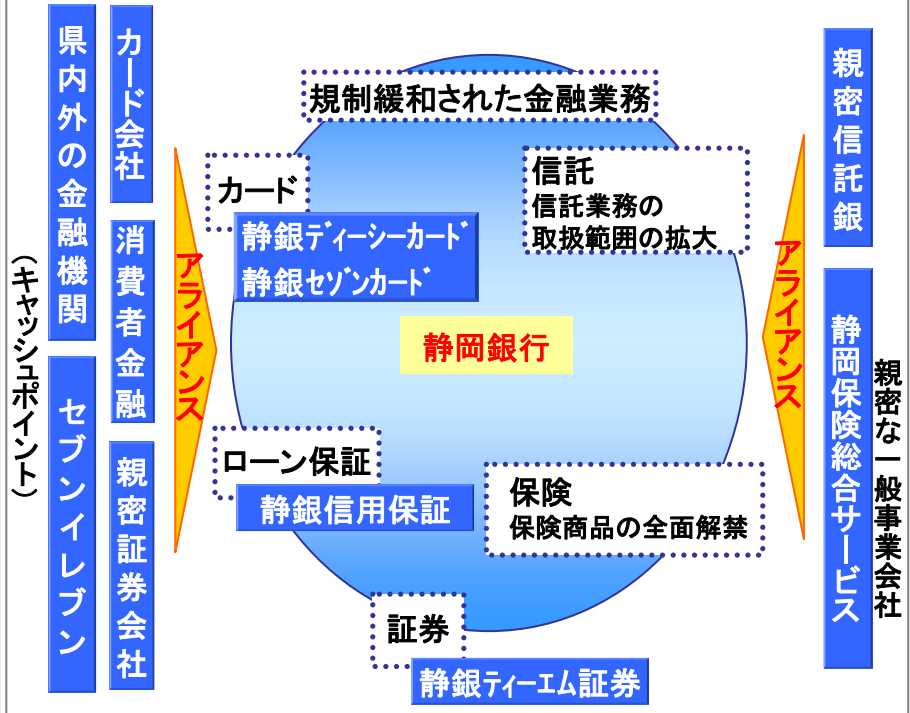
営業エリアの広域化
地域シェアの拡大

グループ事業価値の持続的な成長

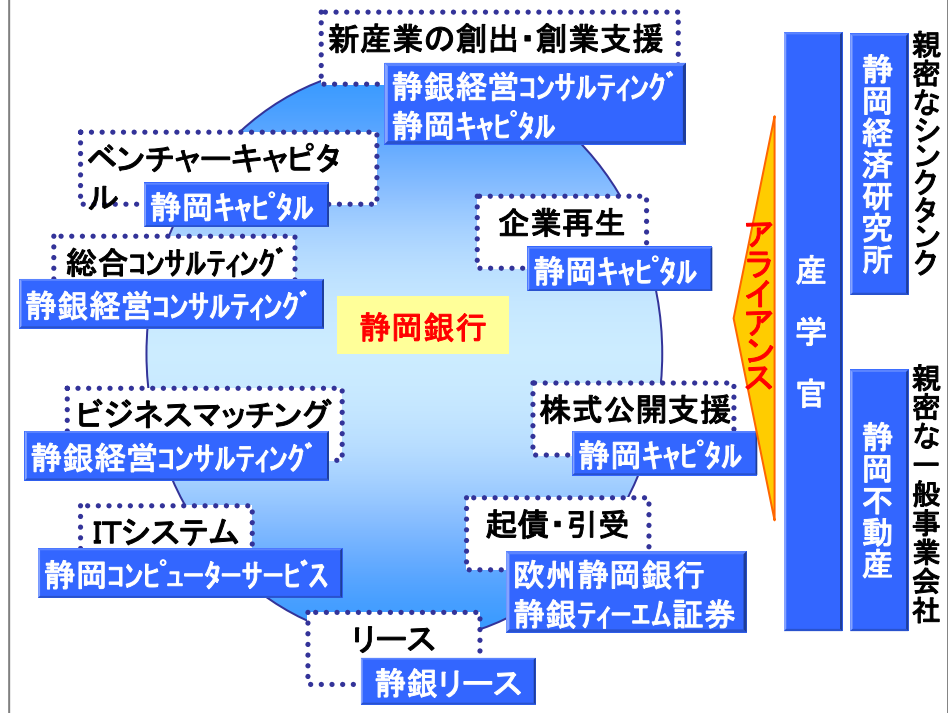
「企業の社会的責任」「地域との一体化」

経営システムの標準化
戦略的資本政策の展開

個人市場 〈金融サービスのワンストップ化〉



法人市場 〈新産業の創出・創業支援から企業再生まで〉



グループの基盤を支える会社

グループの一層の効率化・コスト競争力の強化へ
規制緩和による外部収益の拡大へ（事務の受託業務）



本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。

〔本件に関するご照会先〕

株式会社 静岡銀行 経営企画部IR担当(梅原)

TEL:054-261-3131(代表)

054-345-1116(直通)

FAX:054-344-0131

E-mail:kikaku@jp.shizugin.com

URL:<http://www.shizuokabank.co.jp/>